



録画配信 

歩行空間整備

分身ロボは不登校児童生徒にも活用できそう

戸田の会
あそ うえ かず ひで
浅生 和英 議員

Q 水路上を歩行空間として有効活用しては

A 国に対して働きかけていく

議員 新大宮バイパスに面している笹目3丁目の開水路は、現在、高い柵に囲われ活用の機会がない。水路にふたをして、歩行空間として有効活用してはどうか。

水安全部長 昭和40年代の新大宮バイパス建設に伴って整備されたものとされており、現在は雨水排水施設として利用されていることから、安全対策として、水路の周囲に高さ約1.8メートルの立ち入り防止柵を設置している。当面、ふた掛けや暗渠化などの改修予定はないが、水路が暗渠化された場合、有効活用も可能である。

都市整備部長 水路と並行する国道では、歩行空間の確保を働きかけた結果、植樹帯の一部撤去が実現した。水路敷を歩行空間として活用できないか、改めて国に対して働きかけていく。

その他の質問

Q インクルーシブ教育の推進を。

A 子供の自立と社会参加を見据え、多様で柔軟な仕組みづくりが重要だと考えている。

Q 多様な学びの環境整備に分身ロボットの活用を。

A 1人1台端末を効果的に活用した学びの在り方を検証していく。



多様な学びの環境整備が進められています



録画配信 

子どもの権利

庁舎庭園の桜花、ありがとう、さようなら

日本共産党戸田市議団
はな い のぶ こ
花井 伸子 議員

Q 子どもの権利条例の制定を

A 令和5年度に制定する予定

議員 4月にこども家庭庁がスタートする。「子どもの権利を保障し、誰一人取り残さず、社会全体で後押しをする」としているが、市の体制づくりと、共通の基盤づくりのため、「子どもの権利条例」の制定を。

こども健やか部長 5つの関係部局が連携した「子ども応援プロジェクト」に取り組む。令和5年度に「地域で子育て支援を推進する条例」を制定する予定。

Q 笹目川左岸遊歩道にベンチを

A 設置に向けて検討する

議員 笹目川に架かる境橋から芦原橋の区間にベンチの設置を求める要望が出ている。設置の考えは。

都市整備部長 現在設置されていない区間については設置に向けて検討する。



ベンチの設置が求められている笹目川左岸遊歩道

Q 文化会館前の点字ブロック改善を

A できるだけ早く整備する

議員 文化会館前のバス停にある点字ブロックから、文化会館前交差点へ誘導する点字ブロックの設置を。

都市整備部長 文化会館前のバス停から北側へ20メートル、南側へ60メートルの区間をできるだけ早く整備する。



録画配信 

グリーンケア

悲しみと向き合う人に寄り添い支援します

公明党
み わ こ
三輪 なお子 議員

Q 周産期グリーンケア^{*}の取り組みは

A すべての妊婦へのアンケートで把握する

議員 周産期グリーンケアの取り組みは。

健康福祉部長 ハイリスク妊婦など、母子保健コーディネーターが妊娠届出時から経過を確認している方や、関係部局からの情報提供を受けて対象を把握している。また、妊娠8カ月時点ですべての妊婦へアンケートを行うため、回答内容によって対象者を把握していく。

議員 市のホームページに相談窓口の案内や受けられる公的支援を掲載したり、「情報リーフレット」を作成してはどうか。

健康福祉部長 相談窓口などの案内を市ホームページに掲載していく。リーフレットは喪失感を抱える方へ配慮し、慎重に検証したうえで作成を検討していく。

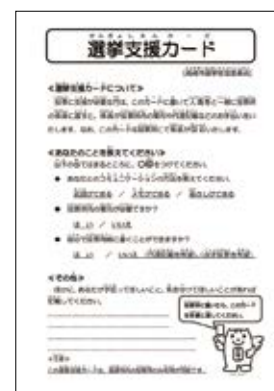
その他の質問

Q 投票所で係員に手伝ってほしいことを記入する選挙支援カードを作成してはどうか。

A 投票に行く際の不安を解消し、安心して投票に行くことができるなどの効果が見込めることから検討していく。

Q 抗体検査・ワクチン接種が進んでいない。

A 更なる受診勧奨を進めていく。



投票に行く際の不安の解消が期待されます

*周産期グリーンケア…死産・新生児死亡で子を亡くした母親・家族の悲嘆過程に寄り添うケア

**ゾーン30プラス…最高速度30キロメートルの区域規制と物理デバイスとの適切な組み合わせにより、交通安全の向上を図ろうとする区域



録画配信 

ゾーン30プラス

通学路における安全対策のさらなる推進を！

立憲民主とだ
こ がね さわ まさし
小金澤 優 議員

Q 市内における設置状況は

A 美女木小学校周辺に設定している

議員 交通事故から子供の生命を守ることは、子育て世代にとって大きな関心事である。市内におけるゾーン30プラス^{*}の設置状況は。

都市整備部長 令和4年度に市内で初めて、美女木小学校周辺の約20ヘクタールの区域を対象としてゾーン30プラスを設定しており、区域の各入口にゾーン30プラスを示す規制標識を警察が、路面標示を市が設置する他、車道を狭める狭窄^{きょうさく}などを実施している。

議員 美女木地区については埼玉県内で最も早い導入例と思われる。先進事例として誇れるものであり、ぜひ他の地域でも検討していただきたい。



狭窄などの更なる設置が求められます

Q 現役世代のがん患者への支援は

A 2つの助成制度を創設する

議員 18歳から39歳までのがん患者は、介護保険や障害者総合支援法の対象にならず、生活に対する公的支援制度もない。家族に大きな負担がかかることに対して支援は考えているか。

健康福祉部長 本市独自の支援として、治療による外見の変化を補完する医療用補正具の購入補助や、末期がんと診断された若年がん患者の在宅での療養生活を支援する助成制度を創設する。